

研究課題	教理・実践の統合化からみるインド密教史の構築
研究代表者	野口 圭也 (仏教学部 仏教学科 教授)

1. 研究目的

本研究は、インド密教文献における教理と実践の統合化のプロセスを基軸として、インド密教史を再構築することを目的としている。研究の主たる題材は、密教の教理と実践の統合化を体現するテキストである『サンプタタントラ』、およびその註釈書であるアバヤーカラグプタ著『アームナーヤマンジャリー』である。『サンプタタントラ』全体の批判校訂テキストおよび訳註を作成し、同時に同テキストに頻繁に見られる他文献からの援用部分を明らかにすることによって、『サンプタタントラ』がいかんにして実践と教理の統合における整合性をはかったのかを考察し、それを通じてインド密教の諸要素における統合化の本質を解明することと意図している。このような新たな学術的見地からインド密教の展開の課程を見直すことが、今後のインド密教研究に求められている。

2. 研究方法

上記研究目的を遂行するために、以下4つの作業をおこなった。

- (1) 『サンプタタントラ』および註釈書である『アームナーヤマンジャリー』の梵文批判校訂テキストおよび訳註の作成。
- (2) 『サンプタタントラ』に見られる他文献とのパラレルパッセージの同定。
- (3) (2)の作業に基づき、教理と実践の統合化の過程において、それまでにインド密教史に出現した教理および実践の諸要素中のいかなるものが取捨選択されたかの検証。
- (4) 密教の教理と実践の統合化と同時代に進行した、顕教（中観および唯識思想）における学説の整理・統合との関係性に対する、大局的な見地からの吟味。

これらの作業は相互に関連しており、研究代表者および研究分担者、さらには海外研究協力者とともに有機的かつ複合的におこなった。

『サンプタタントラ』は全10章からなる浩瀚な経典であり、当研究プロジェクト1年間では、すべてを終わらせることはできない。そこで、まず第1章および第5章に焦点を当てて作業を行うこととした。その準備を整えるために、長島（研究分担者）および倉西（研究分担者）が代表となってイギリス・オクスフォード大学のPéter Dániel Szántó博士（海外研究協力者）を訪問し、当研究プロジェクトの計画について話し合った（2018年4月27日～5月3日）。その会議には、ハンブルグ大学のHarunaga Isaacson教授（海外研究協力者）もSkypeを通じて参加した。

その結果、第1章の作業をハンブルグ大学でIsaacson教授を中心としたチームが担当し、第5章の作業を野口（研究代表者）および苦米地・米澤・長島・倉西（研究分担者）が担当して行い、Szántó博士は『サンプタタントラ』および『アームナーヤマンジャリー』と他文献との関わりなどの周辺情報のアップデートという、第1章と第5章の校訂作業の補助作業を行うこととなった。

これら二つの章を選択した理由は以下の通りである。『サンプタタントラ』第1章およびその註釈では、当文献の基本的性格およびその編纂理由を明らかにしており、上記作業の(3)と(4)を考察するために最も重要な章である。第5章は、インド密教において最重要の儀礼である灌頂を説いており、様々な他文献からの抽出・統合がなされている。それらを明らかにすることによって、『サンプタタントラ』編纂時代に、それまでの段階でインド仏教に登場した灌頂儀礼の中で、いかなるものが取捨選択されたのかを検証する作業(上記(3))をおこなった。

3. 研究成果と公表

『サンプタタントラ』および『アームナーヤマンジャリー』の第1章(ハンブルグ大学)および第5章(大正大学)はそれぞれの研究機関において、適宜、研究会をおこない、それらの成果は毎月 Skype および Dropbox を使用し、報告およびデータ交換をおこなった。2018年9月26日から28日まで研究分担者である苫米地が所属している人文情報学研究所において全体の研究会をおこない、29日から30日まで大正大学総合仏教研究所において、「後期インド密教文献ワークショップ」を開催した。幸い、この時期に、海外研究協力者である Isaacson 教授(ハンブルグ大学)、Szántó 博士(オクスフォード大学)、さらにインド後期密教の専門家として名高い Francesco Sferra 教授(ナポリ大学)が筑波大学のプロジェクト(筑波大学海外教育研究ユニット招致プログラム・人文社会系)として招聘されていたので、同プロジェクトと本研究プロジェクトとの共催とした。これら都合5日間において、『アームナーヤマンジャリー』第1章の40%、さらに『サンプタタントラ』および『アームナーヤマンジャリー』の第5章全体の校訂テキストおよび英訳註を作成した。これらの成果は、申請当初、PDF データおよびモノグラフの形で出版することを計画していたが、苫米地(研究分担者)の提案により、TEI ガイドラインに準拠した XML 形式で公開することとした。(図1図2参照)このXML形式データの公開は、テキストの分節構造や異読情報などを明確に記述することが可能であり、また、サンسكريット文、チベット語訳や引用文献・パラレルパッセージ、英訳註などといった情報を一元的に扱えることから、成果公表に大変有意義である。近年、校訂テキスト

```
<p xml:lang="bo">
  <!-- 2.1.1: athātaḥ sampravakṣyāmi sādhanānam hitā[ya] vai | śiṣyo 'bhiṣicyate
  kathyate ||-->
  <w type="technical" xml:lang="bo">rdzogs pa'i rim pa<w xml:lang="sa"
  type="equiv">utpannakrama</w></w> dañ <w type="technical"
  xml:lang="bo">bskyed pa'i rim pa<w type="equiv" xml:lang="sa"
  >utpattikrama</w></w> 'di <w xml:lang="bo" type="technical">dbañ
  bskur<w type="equiv" xml:lang="sa">abhiṣeka</w></w> med par ma yin ziñ
  de yañ <w type="technical" xml:lang="bo">dkiyl 'khor<w xml:lang="sa"
  type="equiv">maṇḍala</w></w> med par <lb n="P66v7"/> ma yin pas ji lta
  ba'i <w type="technical" xml:lang="bo">cho ga<w xml:lang="sa" type="equiv"
  >vidhi</w></w> bzin de dag gsuñs pa | <seg type="pratika" n="2.1.1a"
  >de nas</seg> zes pa la <lb n="D59r7"/> sogs pa'o || <w type="technical"
  xml:lang="bo">cho ga<w xml:lang="sa" type="equiv">vidhi</w></w>
  <seg type="pratika" n="2.1.1a">yañ dag bśad bya</seg> ste | <w
  type="technical" xml:lang="bo">dkiyl 'khor<w xml:lang="sa" type="equiv"
  >maṇḍala</w></w> gyi zes pa lhag ma'o || <seg type="pratika"
  n="2.1.1cd"><lg>
  <lg>gañ gis <w type="technical" xml:lang="bo">slob ma<w xml:lang="sa"
  type="equiv">śiṣya</w></w> dbaṅ bskur ba'i ||</lg>
  <lg><w type="technical" xml:lang="bo">cho ga<w xml:lang="sa"
  type="equiv">vidhi</w></w>
  <app>
  <lem wit="#D">de yañ</lem>
  <rdg wit="#P">de 'añ</rdg>
  </app>
```

図2 TEI マークアップデータ

```
[V-005]
[Mūla]
trihastam maṇḍalam kāryam tryaṅguṣṭhādhiḥkaṃ tathā |
caturvidyāḥ praveṣṭavyās divyāḥ pañcakulodbhavāḥ ||

dkiyl 'khor khru gsum bya ba dañ ||
mthe boñ gsum yañ lhag par bya ||
der ni rigs lña las byuñ ba' ||
rig ma bzañ po bzug par bya ||

[Commentary]
caturiti (Ms173b1) caturṣu pārśveṣu aṅguṣṭhatrayādhiḥkaṃ hastatrayam | iti maṇḍalam uddiṣṭam
aṣṭaviñśe nirdeṣyati |

bzī zes pa logs bzī rnamas la sor gsum lhag pa'i khru gsum mo zes dkiyl 'khor mdoṛ bstan pa ñi su
brgyad par rgyas par ston par' gyur ro ||

tatra mālājāladir abhiṣeko vyāsatas tantrāntareṣu sugamo 'trāpi (Ms173b3) jñeyah | tathā coktam |
yasmin karmaṇi vidyante na karmavidhayāḥ svakāḥ |
tatra sāmānyatantrōtro vidhir āśryate budhair iti
|
```

図1 ブラウザ上でスタイルシートを適用したデータ

などといった文献学の成果公表方法として注目されている。これらのデータ加工および最終チェックをした上で、近日中に人文情報学研究所のホームページにおいて公開される予定であり、大正大学総合仏教研究所ホームページにもリンクを貼ることとしている。

本研究プロジェクトは、まだ作業の端緒についたばかりであり、今後の継続が不可欠となるのはいうまでもない。今回構築した研究チームの各メンバーと連携しながら、科研費の申請を視野に入れた長期的なスパンで、今後も研究を継続していく所存である。

本研究プロジェクト期間中の関連する主な業績リスト（出版物）は以下の通りである。

倉西憲一、‘An Unidentified Work attributed to Āryadevapāda contained in NGMPP B31/6—Preliminary Edition and Notes’、『仏教文化学会紀要』、第 28 号、出版予定、査読有、オープンアクセス有。

苫米地等流、「Abhayākaragupta 作 *Āmnāyamañjarī* 所引文献(3)—新出梵文資料第 6～8 章より—」、『国際仏教学研究所紀要』、第 1 号、2018、pp. 77-94、査読無、オープンアクセス有。

米澤嘉康、‘*Lakṣaṇaṭīkā* Sanskrit Notes on the *Catuḥśatakaṭīkā*’、『成田山研究紀要』、第 42 号、2019、pp. 85-127、査読無、オープンアクセス無。

米澤嘉康、‘On svatantram anumānam’、『印度学仏教学研究』、第 67 号、2019、pp.1124-1130、査読有、オープンアクセス有。